

NAVIGATION

— 進路指導部便り — 第4号 2021年7月19日

74 回生大学入学共通テストまであと181日

発行 夢野台高等学校
進路指導部

看護系説明会より

6月25日に神戸市看護大学より林先生をお招きし、看護系説明会を行いました。27名の生徒が参加しました。

ここではその振り返りを紹介します。

1年生女子：特に印象に残っているのが、「(先生自身が)以前は文系だった」ということです。私も文系で、理数が苦手なので、先生の話がとても心強かったです。

1年生女子：看護職には保健師や助産師などのいろいろな選択肢があることを知れたので、自分に合った看護職を見つけたいと思います。

2年生女子：自力で調べた情報よりもリアルな看護職のお話を聞くことができたので、とても有意義な時間になりました。自分にはまだまだ足りない部分がたくさんあるけれど、足りない部分をなくすための勉強をするために、大学に行きたいと思いました。受験勉強、頑張れそうです。

2年生女子：看護師にとって大切だというコミュニケーションがあまり得意ではないので、少し不安でしたが、大学に入ってからでもトレーニングができると聞き、頑張ってみようと感じることができました。

3年生男子：自分のケアと患者さんのケアがどちらも大切であり、自分が守れない人は崩れていくと聞いて、これからもこの言葉を思い出しながら生活をしていきたいです。今日の説明会はとても楽しかったので、時間がすぐに過ぎていきました。

3年生女子：入試での面接について、面接官の目線からアドバイスをいただけたので、これからの受験勉強に生かしていこうと思いました。

3年生女子：「その人自身がつ、治ろうとする力を引き出し、サポートするのが看護」という言葉がすごく心に残った。お話を聞いて、さらに夢を諦めたくないと感じた。

3年生女子：看護師という仕事は大変な面も多いかもしれないけど、やりがいのある職業だと感じ、より看護師になりたいという思いが強くなりました。今できることを精一杯頑張ります。

進路指導室よりエール

進路指導室より夢高生にエールを送ります。
進路指導室前の掲示板に、受験に向かう生徒へのエールを掲示しています。週1回のペース

で更新しています。受験勉強に疲れたとき、悩んだとき、苦しいとき、辛いときに目を通してください。いやいや、そうなる前にぜひ目を通してください。少しはすっきりすると思います。受験勉強を楽しんでいる人や、まだ受験勉強を始めていない人にも、参考になるとと思います。ここでは、アーカイブズを紹介します。今後も更新していきますので、進路指導室前の掲示板に見に来てください。

逃げるは恥だが役に立つ…?

勉強はしんどい、苦しい、辛い、面白くない、楽しくない、
…「できれば逃げ出したい」と誰もが思う。

Q. こんなにしんどい勉強(受験勉強)を、なぜしなければならないのか?

A. その質問は「しんどいことはしなくていい」ことをベースにした発想であって…
それをベースにするなら、勉強なんてやってられない。

しんどいことはしなくていいのではなくて、逆に、しんどいからするのだ。

受験勉強がしんどくないなら、それこそやる意味がない。(極論)

説明 勉強に意味があるというよりも、しんどいことに意味がある。

(勉強でなくても、しんどいスポーツでもいいのだ。)

しんどくない勉強には意味がない。(受験勉強に限定する)

受験勉強をして、1つでも偏差値の高い大学に行くことが、しんどい勉強から逃げずに立ち向かったことの証になるのだ。これは決して無駄ではない。

もちろん、それだけでその人のすべてをはかることはできないが、少なくとも受験勉強という苦しみから逃げなかったことを証明してくれる。そういう人なら、「おそらく会社に入ってもしんどい仕事から逃げずにやってくれるだろう」

と思ってもらえて当然である。苦しい受験勉強から逃げた人がしんどい仕事に立ち向かってくれるなんて到底思えない。

受験勉強は、しんどいからこそ価値があるのだ。

「苦しい勉強から逃げて、楽しいゲームに打ち込んだ」なんて、何の役にも立たない。

楽しいことなら、誰でも打ち込める。

楽しい仕事には打ち込むけど、しんどい仕事からは逃げる人なんて、会社が求めていると思うか？

勉強自体に意味はない(極論)。しんどいからこそ意味がある。

勉強はしんどい。だからするのだ。(しんどいならしなくていいのではない)

しんどいことから逃げずに立ち向かうことが、のちのち役に立つ。

しんどい勉強から逃げずに立ち向かうことが、就職時にも役に立つ。

第一志望

第一志望を明言するなんて、恥ずかしい。合格しなかったら格好悪い。…いろんなことが頭をよぎる。第一志望を明言しなければ、そんな思いはしなくて済む。

第一志望を明言しないほうが楽だ。明言するのはやめておこう。…確かに。その気持ちはよくわかる。第一志望を明言するって、勇気が要るよね。

しかし、その勇気が大事なのだ。受験勉強にはその勇気が必要なのだ。歴史がそれを証明している。第一志望を明言した人の多くが第一志望の合格を手に入れてきた。

ビリギャルも然り。ビリギャルに覚悟があったかどうかは怪しいが、明言したことがKO大に向かう過酷な受験勉強への第一歩になったことは確実。

大きなものに立ち向かう勇気、チャレンジ精神がなければ、長く辛い受験勉強の途中でプレッシャーに押しつぶされてしまう。

勇気と覚悟がなければ受験戦争は戦えない。

第一志望の明言は、勇気と覚悟の証なのだ。

隠しておきたい気持ちはわかるが、勇気をもって明言しよう。

それが第一志望合格への第一歩なのだ。

文理選択

1年生は文理選択の真っ最中だ。右へ行くか左へ行くか、人生の分かれ道。悔いのない選択をしたいものである。数字アレルギーなのに理系を選択したり、医者になりたいのに文系を選択するのは問題外。そんな大間違いさえしなければ、どちらを選んでも間違いではない。

2・3年生においては、もう決まったから終わったこと…ではない！選んだ後が選ぶ時よりも大事。自分が選択したことを、成功という結果に導かなければならない。今がその真っ只中。選ぶ段階では、成功も失敗もない。成功か失敗かは結果であって、結果を決めるのは、どちらを選ぶかではなく、選んだ後の取り組みである。

Tシャツを買いに行つて、白のTシャツが気に入ったとしよう。

ここで頭をよぎるのは何か？…カレーうどんを食べる時に困るということ。

白のTシャツを着てうどん屋に入り、どうしてもカレーうどんを食べたくなり、汁を飛ばしてシミをつけてしまったら…「しまった！黒にしておけばよかった！」と、Tシャツを選んだ時までさかのぼり、白を買ったことを誰もが悔やむ。

しかし、そうだろうか？白を選んだことが間違っていたのだろうか？もちろん、無難な黒を買ってあればシミにはならなかっただろうが、白が気に入ったのではないのか？白を買ったことは間違いではない。気に入った白を買わなかったとしたら、それこそ後悔することになる。では、どこで間違ったのか？

うどん屋に入らなければ…、カレーうどんを注文しなければ…。

いやいや、そうではなくて、悔やむべき(反省すべき)は汁を飛ばしたことでないのか？たとえ白を買って、うどん屋に入って、カレーうどんを食べたとしても、汁さえ飛ばさなければこんなこと(失敗という結果)にはなっていない。

今の自分の不注意が招いた結果(失敗)なのだ。遠い過去の選択が間違っていたわけではない。遠い過去の自分に責任を押し付けたい気持ちはわからないでもないが…。文理選択も同じ。理系を選択して理系教科についていけず、「しまった！文系にしておけばよかった！」と途中で文転する生徒がいる。そんな生徒は文転してもそう簡単には成功しない！理系を選択して失敗したから文系だったら成功するという発想は文系に失礼だ！

理系で失敗する生徒はおそらく文系でも失敗する。どちらを選択しようと、結果(失敗)は同じだ。なぜなら、理系で失敗したのは、理系を選択したのに理系教科をサボったからであって、そんな生徒は文系を選択していても、きっと文系教科をサボって失敗することになる。結果は同じだ。選択を間違ったのではない。その後の取り組みが間違っていたのだ。唯一、選択の段階で間違ったことがあるとするなら、安易に理系を選んだということ。「理数が得意で理系に来たから多少手を抜いても大丈夫」という油断が、気が付いた時には取り戻せないほどの学習の遅れを引き起こしている。理系を選択するのだから、「理数教科に全力を尽くす」という覚悟があれば、結果は違っていたはず。

文系を選択するにしても同じ。覚悟がなければ文系を選択しても失敗する。

結局、サボろうとするから失敗する。成否のカギを握っているのは覚悟なのだ。

自分で選択したことへの責任をもち、成功という結果を導ける人になろう！